

合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第 I 項 生活科学部 食物栄養科学科 食物科学 専攻

出身高校名 聖霊高等学校

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私は将来、食べ物を通して飢餓や貧困に苦しむ世界の子供たちを笑顔にするため食品メーカーで食品開発に携わりたいと考えていました。同志社女子大学は管理栄養士専攻と食物科学専攻に分かれているので、国家試験のための4年間ではなく、商品開発に必要な実践的な実習や実験が行なえる環境が整っており食に関する幅広い分野の知識を学ぶことができると考えたからです。また、オープンキャンパスで体験講義に参加し食べ物を物理的な観点から考察し実験していく様子に高校までの家庭科の授業とはまったく違う楽しさを感じたからです。

- (2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

私は中高6年間、キリスト教主義教育の学校で宗教委員会に所属しており誰よりもキリスト教行事に携わってきた自信があります。そのため、今までの自分の活動経験を活かせる入試方法に挑戦したいと考えていました。AO方式は同志社女子大学に入学したいという熱意を自分自身の言葉で直接伝えられるところに魅力を感じました。また、学力のみではなく内面的な部分を評価してもらえる入試形態は自分に合っていると感じたからです。

- (3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

中高6年間キリスト教主義の学校で宗教委員会に所属し、2年間委員長として宗教行事の運営に携わってきたこと、宗教同好会を立ち上げ、病院などの奉仕活動や学校の修道院の清掃を行ってきたこと、紛争による飢餓や貧困に苦しむ子どもたちへの支援を中心にボランティア活動を行なう部活に所属していたこと、このうちを中心に大学入学後の宗教部の活動への参加意欲についてアピールしました。また、高校在学中に取得した料理検定や英語検定についてもアピールしました。

- (4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

同志社女子大学でなければいけない理由を明確にし入学後に受けてほしい授業やオープンキャンパスで講義していただいた先生の名前、取得したい資格を取上げて学習に対する意欲があることを主張しました。自己アピールで心がけたことは、これまで行なってきた活動内容を振り返りながら、それによって得たことや成長したことなどをまとめて自分がどんな人間であるか相手に伝わるように意識しました。

〔面接〕

明るくハキハキと話すように心がけました。相手が聞きたいと思うことを一番に伝えることができるように何度も何度も練習しました。予想していなかった質問は焦らず思ったことを素直に答えるようにしました。面接練習は4人の先生に見ていただき注意されたことはノートにすぐ書き込み家で復習しました。目線や姿勢、声の大きさやトーンなどはアドバイスをもらうたびにひとつずつ直すことができると思うので練習を見てもらうのが一番です。これだけやってきたんだから大丈夫と思えるくらい練習したので、当日は面接官にもっと自分を知らせてもらおうという気持ちで臨みました。

- (5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

同志社女子大学のAO方式は決して簡単ではありません。高校の中で他の子よりも早い時期に書類を作成しなければいけない。自分がどんな人間なのかを決められた字数内で相手にわかりやすく伝える難しさや、頭で思っていることを実際に書くことの大変さで悩むこともあると思います。でも、そのおかげで、自分と向き合う時間になり見つめ直すきっかけにもなりました。私が一番伝えたいことは「色んなことに興味を持ってチャレンジすること」です。それはAO方式で合格するための武器になると思います。同志社女子大学に入りたいという気持ちがあればきっと乗り越えられます。頑張ってください。応援しています!